

学位論文要旨

氏名 松葉 宏起



論文題目

「 **Diagnosis of the Extent of Advanced Oropharyngeal and Hypopharyngeal Cancers by Narrow Band Imaging With Magnifying Endoscopy** 」

(狭帯域フィルター併用拡大内視鏡による進行中咽頭・下咽頭癌の範囲の診断)

指導教授承認印

山下 拓



Diagnosis of the extent of advanced oropharyngeal and hypopharyngeal cancers by narrow band imaging with magnifying endoscopy

(狭帯域フィルター併用拡大内視鏡による進行中咽頭・下咽頭癌の範囲の診断)

氏名 松葉 宏起

【目的】

狭帯域フィルター併用拡大内視鏡 (NBI-ME) は、中咽頭部、下咽頭部及び食道部における表在癌の検出に有用である。我々は進行中咽頭・下咽頭癌及び進行食道癌の隣接部位への表在癌の進展 (SCS) の頻度を評価するため NBI-ME を使用した。

【方法】

2006年10月から2009年4月にNBI-MEを受けた中咽頭・下咽頭癌患者45例及び食道癌患者44例をレトロスペクティブに検討した。1) 進行中咽頭・下咽頭癌および進行食道癌の隣接部位へのSCSが臨床T分類および臨床病気に与える影響を評価した。

【結果】

原発腫瘍の隣接部位へのSCSが検出された患者の割合は、進行中咽頭・下咽頭癌患者群が49% (45例中22例)、進行食道癌患者群が52% (44例中23例)であった。進行中咽頭と下咽頭癌では、腫瘍の大きさの評価時に原発腫瘍の隣接部位へのSCSを加味した場合に、臨床T分類及び臨床病気が修正された患者の割合はそれぞれ20% (45例中9例) および4% (45例中2例) で、SCSが2cm以下および2cm超~4cm以下であった患者の割合はそれぞれ64% (22例中14例) および36% (22例中8例)であった。

【結論】

進行中咽頭・下咽頭癌患者では、治療前に腫瘍範囲を評価し最適な切除縁および照射野を決定するための精密診断の項目にNBI-MEを含めるべきである。